

仕様書

ロボット・AI部

1. 件名

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術／スマートシティの分野間・地域間連携等に関する調査

2. 目的

Society5.0を具現化するためにはサイバー空間とフィジカル空間とが相互に連携したシステム作りが不可欠であり、未だ様々な開発要素・課題がある。特に、システム全体が複雑化し、技術の進化が速い中でイノベーションを創出していくためには、システム間の相互接続性やシステムの拡張性等が確保されることが重要となる。

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」（以下「本プロジェクト」という。）では、2019年度に、システム間の相互接続性等の確保を目指して「アーキテクチャ構築」に係るテーマを実施し、スマートシティ・リファレンスアーキテクチャ（以下「SCRA」という。）やその活用に係るガイドブック等を作成した。また、内閣府では2021年度にその続編となるスマートシティ・ガイドブックを作成している。各自治体においては、SCRA等を参照しスマートシティ化に取り組んでいるが、現在のところ、あくまで一都市のスマート化を推進しているケースが大半で、分野間・地域間の連携にまで至っていることは少ない。

本調査では、スマートシティの分野間・地域間連携に向けた取組の現状を整理すると共に、今後推進すべきデータ連携サービスの検討等を通じて、国内外のスマートシティ化推進に向けた課題等を特定する。

3. 内容

以下の各業務について、適宜NEDOと相談の上で実施すること。

（1）分野間・地域間連携に向けた取組に係る調査

都市OSを導入している自治体、都市OSベンダーを主な調査対象とし、国内各地域におけるスマートシティ実装の進展状況や、特に分野間・地域間の連携に向けた取組について、水準やその効果を確認し、現時点の成果・到達点を把握すること。

また、達成水準やパフォーマンスに関する標準的な評価基準・手法をまとめること。

併せて、SCRAや付随するガイドブックに対し、参照している箇所、改善すべき箇所などの意見を集約し、改訂の方向性をまとめること。

(2) データ連携サービスに係る調査

国内での計画的な社会実装及び国際展開に向け、スマートシティ官民連携プラットフォームや関連組織・団体はじめとする、国内外でスマートシティの取組に関わる官民の関係者に対するヒアリング等を通じ、(準公共的) データ連携サービスの具体的領域を特定し、ユースケースを整理すること。

なお、国外ヒアリングに使用する資料として、内閣府が策定している「スマートシティ・ガイドブック」の英訳も業務に含むものとする。英訳等は自動翻訳に依るのではなく、ネイティブチェックを入れる等、英語圏の読者が違和感なく読めるよう水準向上に努めること。

また、内閣府が事務局を務める「スマートシティ関連事業に係る合同審査会」(2022年5月開催予定)の運営支援(資料の整理、関係者への連絡、委員謝金・交通費支払い等)も業務に含むものとし、当該業務を通じて国内事業の情報整理を行うこと。

(3) 進捗報告会の実施

(1) (2)に係る進捗報告を、本プロジェクトのプログラムディレクター、サブプログラムディレクター、イノベーション戦略コーディネーター、内閣府、NEDO等に対して月1回程度実施すること。

また、NEDOへの進捗報告は上記を含め、2週間に1回程度実施すること。

4. 調査期間

NEDOが指定する日(2021年度)から2022年6月30日まで

5. 報告書

2021年度終了時には中間調査報告書を、2022年度終了時には調査報告書を所定の期日までに提出。

提出方法：NEDOプロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中または委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上